

花での乳酸菌適用事例

株式会社M's JAPAN WEST

2400坪のハウスでブーゲンビリア(ブーゲンビレア)、グズマニア、ポインセチアを中心に栽培



複合乳酸菌の使用方法は、鉢花の培土 1リ्यूベ(1000~1500kg)に対して、複合乳酸菌原液 2~3lを散布して、よくかき混ぜたものを培土として使用する。

乳酸菌の葉面散布は100倍希釈でたまに気が付いた時(月に1回程度)に散布する程度でいけているようです。

乳酸菌の灌水により根張りが良くなるため、植物の成長が早くなり花もちも良くなります。



病気が発生しなくなり、農薬もほとんど使用していないとのこと。

炭疽病が出なくなったのと、乳酸菌を使用する前は培土を蒸気で消毒していたが、今は消毒しなくてもいいとのこと。

他にも季節によってさまざまな種類のお花を栽培されています。



カランコエを生産している生産者様では1カ月に1回程度乳酸菌を葉面散布(100倍濃度)しています。

これまでの夏の暑い時期は、高温障害で花の色抜けが起きたりしていました。しかし、M-01複合乳酸菌を使い始めて色抜けを大きく減らすことができました。

色抜けが10発生していたとすると、体感で3くらいまで減ったそうです。そのおかげで秀品率がUPLしました。

植物の身体そのものを丈夫にすることで、色抜け以外にも病気や害虫による食害もかなり減少したとのことです。



根域の微生物活性化により、給肥力が上がるとともに、ファイトケミカル(※)が増加するなどの効果で丈夫な身体を作り、様々なトラブルを回避できたのだと思われます。

毎年の異常気象で今まで通りのやり方では、栽培に限界や問題点があるならば、微生物のチカラで植物そのものを丈夫にすることを考えてみてはいかがでしょうか。

※ファイトケミカル(phytochemical)とは、植物が紫外線や昆虫など、植物にとって有害なものから体を守るために作りだされた色素や香り、辛味、ネバネバなどの成分のことです。

